

第2期若手チャレンジプロジェクト 提言書

令和5年9月

1 第2期若手チャレンジプロジェクトの概要について

若手チャレンジプロジェクトは、入庁3年目の若手職員で構成されており、薩摩川内市の市民サービス満足度及び職員の政策立案能力の向上を目的として、若手職員ならではの自由な発想でまちづくりに関する調査・研究を行うものである。

本プロジェクトでは、「市の魅力度向上」を目的とし、4つの班に分かれて、自由な視点から市の魅力度を向上するためのテーマをそれぞれ定め、調査の結果を取りまとめた。

2 任期

令和5年5月15日～令和5年9月30日

3 研究事項

- (1) 薩摩川内市の市民サービスの向上に関すること。
- (2) 薩摩川内市のまちづくりに関すること。

4 各班のテーマ

班	テーマ
1	次世代まちづくり構想
2	街の保健室
3	特産品の知名度アップ
4	自然を活かしたまちづくり

5 検討スケジュール

	開催日	内容
第1回	5月15日	辞令交付式 オリエンテーション
第2回	5月25日	各班テーマ設定
第3回	6月5日	現状・課題の整理
第4回	6月14日	現状・課題の整理
第5回	6月28日	先進事例調査
第6回	7月7日	先進事例調査
第7回	7月14日	具体的取組方針の整理
第8回	7月25日	具体的取組方針の整理
第9回	8月15日	各班報告書取りまとめ
第10回	8月29日	報告書作成
第11回	9月19日	市長提言

6 構成メンバー

	所属	氏 名	職名	班
1	行政管理部行政経営課	山下 直志	主事	2
2	行政管理部総務課	薬師寺 星璃	主事	3
3	未来政策部コミュニティ課	富満 龍介	主事	1
4	行政管理部総務課	山田 咲和子	主事	1
5	市民安全部市民課	税所 優	主事	3
6	市民安全部市民課	上野 桂市	主事	1
7	市民安全部市民課	永田 真拓	主事	4
8	市民安全部防災安全課	川上 裕太郎	主事	2
9	市民安全部税務課	梶原 大作	主事	3
10	市民安全部収納課	坂口 裕美	主事	4
11	保健福祉部高齢・介護福祉課	平生 皇紀	主事	4
12	保健福祉部障害福祉課	益満 圭太	主事	4
13	保健福祉部市民健康課	松元 雅俊	主事	1
14	農林水産部畜産営農課	三腰 陽輝	主事	2
15	農林水産部畜産営農課	奥村 優樹	主事	3
16	農林水産部畜産営農課	前之園 希望	主事	1
17	農林水産部耕地林務水産課	橋口 舜一	主事	3
18	農林水産部耕地林務水産課	山下 翔平	主事	4
19	経済シティセールス部経済政策課	松田 紗奈	主事	2
20	経済シティセールス部経済政策課	貞野 蓮人	主事	4
21	経済シティセールス部産業戦略課	宮本 楓華	主事	4
22	建設部都市整備課	内田 健士	主事	1
23	建設部都市整備課	松元 水樹	主事	3
24	教育部教育総務課	浜田 冬真	主事	2
25	会計課	増永 拓巳	主事	3
26	農業委員会	泉 奏汰	主事	2

7 提言の概要について

1 班「次世代まちづくり構想」

(1) 目的

近年、「くつろぎ」の時間を大切にする方が増加傾向にあることに着目し、調査を進めた。
閉校跡地を活用し、利用者がくつろげる施設を設置することで、市民の満足度向上を目的とする。

(2) 内容

ア 施策の方向性（どのような施設を目指すか）

○ 提供するサービス

(ア) 漫画コーナーの設置

漫画に特化することで、図書館との差別化や、年齢問わず楽しめることからより多くの人々に楽しんでもらえる場とする。

(イ) 郷土資料コーナーの設置

各地域の郷土資料の展示や、「すてきびと」等の取り組みを取り上げることで、若者などが本市のことをより深く知るきっかけづくりの場とする。

イ 期待される効果

(ア) 使用していない既存施設の有効活用

(イ) 県内では例のない施設の設置によって、市外へ魅力を発信できる。

2 班「街の保健室」

(1) 目的

人間関係や健康問題、医療費の増加が問題になっていることに着目し、調査を進めた。
「保健室」のような誰もが気軽に相談に行ける場所を新たに設置することで、市民の心と体の健康の増進を目指すことを目的とする。

(2) 内容

ア 施策の方向性

○ 事業の内容

(ア) 窓口体制

対面での相談は、市内の空き店舗等を利用し、週1回程度とするが、ホームページやチャットを使用した非対面での相談できるオンライン窓口も設置する。

(イ) 対象者

人間関係や健康問題で悩んでいるが、どこに相談に行ってもいいかわからない方や対面での相談が難しい方を対象とする。

(ウ) 運営スタッフの確保

医療やカウンセラーの資格を有しているが、家庭の事情等でフルタイムで働くことができていない人材や、市内大学等の連携し、これから資格取得を目指す学生を中心に運営を行う。

イ 期待される効果

- (ア) 多種多様な職種に多様な相談ができる。
- (イ) 人材の再発見、これから輝く人材の育成の場として活用できる。
- (ウ) 多様な相談内容をデータ化し市民のニーズを把握できる。

3 班「特産品の知名度アップ」

(1) 目的

若い世代が本市の特産品について、どれだけ把握しているのかを、きんかんを例とし、調査を進めた。

新たな商品開発や若者が利用する SNS 等を活用しながら、周知を行うことで、本市の特産品を若い世代に知ってもらい、本市特産品の知名度アップにつなげることを目的とする。

(2) 内容

ア 施策の方向性

○ 事業の概要

(ア) 新たな商品開発

市内の企業、学校等と連携しながら新たな商品開発を目指す。

(イ) 地域イベントへの出品

地域イベントや学祭等のイベントに出品し、認知度向上を目指す。

(ウ) SNS の活用

インスタグラムによる発信や、写真に映える商品等を考案し、認知度向上を目指す。

イ 期待される効果

- (ア) 認知度向上や、メディアに取り上げられることで生産者の意欲の向上につながる
- (イ) イベント参加等をとおして、地域の活性化につながる。

4 班「自然を活かしたまちづくり」

(1) 目的

本市の魅力を再認識してもらうことで、交流人口の回復・拡大することに着目し、調査を進めた。

広大な面積を有する本市の海や山といった自然や、そこにある施設をイベント等で利用することで、交流人口の増加等による地域の活性化を目的とする。

(2) 内容

ア 施策の方向性

○ イベントの概要

(ア) 開催時期

現在も、様々なイベントで利用される川内川河川敷をメインとし、各季節1回イベントを開催する。

(イ) 参加特典

他の会場にも訪れるきっかけづくりとして、本市の特産品等を景品としたスタンプラリーを実施することで、他会場へ足を運ぶきっかけとする。

(ウ) 出店者

地元の飲食店や自治会等にイベントに協力してもらうことで、地域の活性化につなげる。

イ 期待する効果

(ア) 1年間をとおして、イベントを開催することで交流人口の増加が見込める。

(イ) 地域とともに、イベントを開催することで地域の活性化、地域の輪の形成のきっかけとなる。